

大野町における「道の駅」での取り組み 事例の紹介

―地域振興活性化の拠点としての道の駅のあり方―

岐阜県大野町 産業建設部 観光企業誘致課

1. はじめに

大野町は、岐阜県の南西部に位置し、根尾川、揖斐川に挟まれた三角州地で、石灰質の水流と中州の肥沃な大地の恵みを受け、富有柿及びバラ苗の全国有数の生産地である。

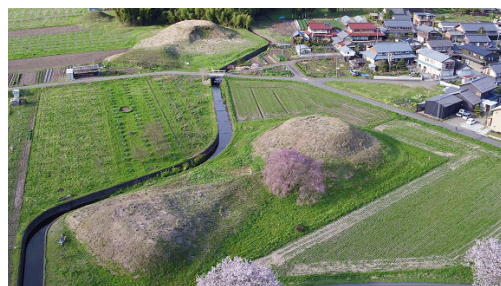
また、町内には、国宝絹本著色五大尊像をはじめ、200基を越える古墳や国の重要文化財に指定されている牧村家住宅などの歴史的資源、また戦国の名軍師である竹中半兵衛ら歴史上の人物を輩出するなど歴史ロマンを感じる多くの資源を有している。



バラ公園



牧村家住宅



古墳

2. 大野町の道の駅「パレットピアおおの」について

本町では、令和元年12月14日に東海環状自動車道大野神戸インターチェンジ（IC）が開通した。ICが西美濃地域の玄関口として広域的な観光情報発信拠点の役割を担うことや、人・物・情報の流れが加速し、地域間交流の促進や工場の立地など、新たな可能性が高まることを期待し、その効果を最大限に活用するため、IC開通に合わせ、道の駅「パレットピアおおの」の整備を進めてきた。

また、道の駅を整備するにあたり、道路利用者の利便性向上と施設を利用する人々にとって、「休憩機能」、「情報発信機能」、「地域連携機能」の3つの機能を併せ持ち、かつ「地域防災」や「地域福祉」といった地域の課題解決を担う拠点として、平成24年度に策定した将来のまちづくりの方向性を示した「大野町グランドデザイン」を踏まえ、これらの重点テーマである“3つのK「観光」「企業誘致」「環境」”を具現化し、町民が郷土大野の中心的な観光地として、子どもからお年寄りまで町民だれもが日常的なやすらぎの場として利用できるとともに、町外からの来訪者をあたたかく迎え入れ、もてなすことができる道の駅を目指すため、道の駅基本コンセプトを「町民が“誇り”と“愛着”をもてる 大野の新たな観光地づくり」とした。

また、平成26年度には、東海環状自動車道大野神戸インターチェンジの開通を活かし、通常時には周辺地域から広く観光客を呼び込む拠点となるほか、災害時には既存の広域防災拠点を補完し、連携して活

現在は、指定管理者をはじめ、関係機関と連携を図り、道の駅として求められる機能を充実させる取り組みを進めており、令和2年7月11日には無事2周年を迎え、利用者も7月31日現在で85万人を超え、町内外を問わず多くの方にご利用いただいている。



その中で、道の駅に求める機能として、「観光誘客・情報発信機能」、「公共交通機能」、「防災機能」、「子育て支援機能」などの意見を取り入れ、本町の抱える課題を解決し、道の駅を核とした多機能で新たな可能性を持つ施設を目指すこととした。

24 時間利用可能なトイレ情報館を設置し、道路情報等の発信と併せて、100 インチ大型モニターやパンフレットにより、本町の歴史や文化、自然、イベントに加え、揖斐郡をはじめとする西美濃地域など、広域観光情報など町内外の魅力や観光情報を発信している。

町PR観光動画



【上段】
イベント情報等

【下段】
道路情報

大型モニターで町観光PR動画などを放映

(2) 公共交通の結節点としての取組み

公共交通の利便性向上のため、主要バス路線において、停留所の追加や路線の延伸など、バス運行事業者に働きかけを行い、道の駅オープン当初より運行を開始している。

また、高齢者、障がい者、子育て世代及び運転免許自主返納者等を対象に、町が運行する乗合タクシー（通称大野デマンドタクシー）の停留所を道の駅に設置することで、道の駅の施設利用向上に繋がるとともに、町内の移動を支援し、地域交通の主要な結節点の一つとして町内外へのアクセスの確保を行っている。

主要バス路線におけるバス運行状況（始発駅及び終着駅のみ記載）

岐阜バス（大野忠節線）

停留所名	平日	土日祝日
パレットピアおおの行き	11 便	8 便
JR 岐阜行き	12 便	9 便

名阪近鉄バス（大垣大野線）

停留所名	平日	土日祝日
パレットピアおおの行き	5 便	3 便
JR 岐阜行き	5 便	3 便

※令和2年7月1日現在

(3) 防災拠点としての取組み

地域の防災拠点として、災害時における地域住民や帰宅困難者等に対応するため、水害以外の指定緊急避難場所として、位置付けを行い、受け入れ体制を構築している。

また、自衛隊等の広域支援活動を想定し、県及び道の駅指定管理者と協議を重ね、県内の他の広域防災拠点の課題や不足する機能を補完する取り組みを進め、平成30年7月に大規模災害が発生した場合に想定される県外からの応援部隊や支援物資の受け入れ体制について計画されている「岐阜県災害時広域受援計画」における広域防災拠点に指定された。

これにより、道の駅全体が「避難場所」と「防災活動拠点」の2つの役割を担っており、災害時の臨機な対応を可能としている。

防災設備（一例）

- ・ 防災倉庫（ポリタンク、浄水器等）
- ・ 飲料水兼用耐震性貯水槽
- ・ マンホールトイレ
- ・ 防火井戸
- ・ 岐阜県防災無線（子育てはうす「ぱすてる」内）
- ・ ヘリポート機能を有する駐車場

●マンホールトイレ



●防災倉庫



●飲料水兼用耐震性貯水槽



(4) 子育て支援施設としての取組み

子育て中の保護者の孤独感や不安感の緩和を図り、子どもの健やかな成長を支援するため、主に乳幼児やその保護者が相互の交流を図る場を設け、子育てについての相談、情報の提供、助言などの支援を行い、地域の子育て支援機能の充実を図ることを目的に、道の駅に子育て支援施設を併設した。

また、子育て支援施設には、近年本町で取り組んでいる“木育”を取り入れ、県産材をふんだんに使

用し、「木育」の拠点となる施設としても、広く利用いただいております。施設内の設備には、東京おもちゃ美術館の監修により、古墳や柿、バラといった本町らしさをふんだんに取り入れたキッズルームをはじめ、乳児ルームや図書ルーム、授乳室などを整備し、子育て世代を応援する施設となっています。



キッズルーム



図書ルーム

4. おわりに

構想段階より、地元事業者や生産者、商工会、地域住民から意見を取り入れ、さまざまな機能を持つ道の駅として、地域産業の活性化や人々の交流、地域課題の解決に資する施設を目指してきた。

また、道の駅「パレットピアおおの」の名前の由来でもある、「パレット」は、絵の具を出したり、混ぜ合わせたりする道具であり、道の駅で販売されている花や野菜などを絵の具に例え、これを人々の交流やふれあいによって絵の具のように織り交ざることにより、多彩で素晴らしい町の未来を描いていける施設となるよう、引き続き盛り上げていきたいと考えている。